

# 母子手帳 70 周年記念シンポジウム

## 【趣旨】

世界に先駆けて、母と子の健診記録や健康教育が一冊にまとまった母子手帳が配布されたのは 1948 年（昭和 23 年）でした。終戦直後の貧困と物資不足の時期に、母と子のいのちを守り、食糧配給の記録としても活用された母子手帳。いまでは世界 40 以上の国や地域に広がり、「だれひとり取り残さない」持続可能な開発目標（SDGs）をめざした活動に貢献しています。

70 年前に母子手帳を開発した先達の先駆性に改めて敬意を表するとともに、世界の次世代のために、いま私たちは何をすべきなのか、未来志向の議論を期待しています。

## 【概要】

主催：国際母子手帳委員会

共催：社会福祉法人恩賜財団母子愛育会愛育研究所

日時：2018 年 11 月 13 日（火）午後 2 時から 5 時

会場：恩賜財団母子愛育会 4 階研修室（東京都港区南麻布 5 丁目 6 番 8 号）

後援：日本国際保健医療学会、日本 WHO 協会、日本医師会、NPO 法人 HANDS など

## 【プログラム】

14：00－14：05 開会のあいさつ 中村安秀 国際母子手帳委員会

14：05－14：20 ご来賓あいさつ 厚生労働省、日本医師会、国際協力機構など：

14：20－15：30 基調講演（1 人：20 分＋質疑応答）

ファシリテーター 佐藤紀子（母子愛育会）

- ・「日本の母子健康手帳のあゆみ」 平子哲夫（厚生労働省子ども家庭局母子保健課）
- ・「母子愛育会からみた母子健康手帳と今後の展望」 中林正雄（母子愛育会）
- ・「世界の母子手帳から教えられたこと」 中村安秀（国際母子手帳委員会）

15：30－15：45 休憩

15：45－16：55 パネル・ディスカッション（1 人 10 分）

ファシリテーター 中村安秀（国際母子手帳委員会）

「だれひとり取り残さない母子手帳をめざして」

- ・「親子健康手帳交付から始まる子育て支援～すべての親子が健やかに成長できる地域づくりを目指して～」 小牧市
- ・「離島も本島も同じ母子手帳をつかおう！」 沖縄県小児保健協会
- ・「外国語と日本語併記の母子手帳が 9 か国になった」 母子衛生研究会
- ・「低出生体重児のための母子手帳ができた！」 静岡県健康福祉部
- ・「アプリだからこそできる母子手帳をめざして」 株式会社 NTT ドコモ

指定発言

- ・「民間の経験を活かした海外の母子手帳への協力」 イオントップバリュ株式会社

16：55－17：00 閉会のあいさつ 中林正雄（母子愛育会）

## 懇親会

日時 11月13日 夜6時から8時

会場 中国茶房 八六本木店 <http://www.roppongi8.jp/>

母子愛育会から徒歩約10分くらいとのことです。

会費 2時間の飲み放題付き 3000円（税抜き）

（18:00-20:00 懇親会）